

千里国際学園 中等部・高等部

新シリーズ「Authentic Opportunities 本物に触れる教育」

第3回 5つのリスペクト

入学センター・国語科 牧 百合子

生徒ひとりひとりに改めて質問をしてみました「SIS（千里国際学園のことを私たちは SIS と呼んでいます）はどう?」。この、唐突で漠然とした質問に、生徒たちは臆することなく、さわやかにこう答えてくれました「楽しい!」と。そして、多くの生徒はこう付け加えたのです「自由だから。」と。

<自由と責任>

高校生になると自分で時間割を作ります。自分の興味や進路に合わせて履修登録を行うこの時はまさに、「自由」に直面する時です。自分と向き合い自分に問いかけ、自分にとってベストな時間割を作ったはずなのに、学期も中盤に差し掛かると生徒たちはいろいろな困ったことに出くわすようです。思ったよりも難しい、この科目が苦手になった、一日に英語3つはやっぱりしんどい等々、彼らなりの理由で不満を抱いたりやる気を失ったりするようです。しかし、彼らは逃げ出すわけにはいきません。なぜなら、「自分で決めた時間割なのだから最後までやりぬかねばならない」と知っているからです。もちろん、入学したばかりの生徒だとそこまで考え及ばないかもしれませんが、「やり遂げてみなさい」と教員から諭されたり、友達から「最後まで頑張れよ」などと激励されながら、徐々に「自分で決めることができる」＝「自由」そしてこの「自由」にはやり遂げる「責任」が伴うのだと学んでいくようです。時間割はほんの一例に過ぎず、クラブを立ち上げて責任を伴うし、なにか行事を発案しても責任が伴います。なにかあった時には、責任を問われることもしばしば。何事にも果敢に取り組む SIS の生徒たちは、折に触れて、自由と責任について、身をもって考えさせられています。

<自由な雰囲気>

学校を訪れた方々に「明るく自由な雰囲気ですね。」と言われます。広々としたエントランス、アメリカの学校のように教室前に生徒ロッカーが並んでいる様子、生徒が自分で作りあげた時間割で活動する様子は、確かに自由な雰囲気を醸し出していると思います。また、「校則がない」という事実も自由な雰囲気と結びついているのだと思います。そもそも、校則がないことには理由があります。SIS はアメリカをはじめ多くの国々からの帰国生徒を迎え入れています。生徒によっては帰国ではなく、日本という外国に行くという感覚の生徒も少なからず

います。それに加えて、SIS は OIS（Osaka International School 英語で教育を行ういわゆる「インターナショナルスクール」）とひとつのキャンパスを共有し、学校行事や課外活動、そして授業の一部（音楽・体育・美術・英語・社会など）を合同でおこなっています。このように SIS と OIS の生徒が日常的に交流する特殊な環境ですので、「髪染め禁止」や、「スカートの丈は・・・」などという校則ではなく、世界各国から集まった両校の生徒たちがすんなりと受け入れることのできる、共通の行動の指針が求められました。そして、熟考をかさねた末にできあがったのが、日本はもちろん、どの国の文化習慣にも通用する行動規範のエッセンス、「5リスペクト 5 Respects」です。

<5リスペクト>

〈自分を大切に Respect for Self〉

〈他人を大切に Respect for Others〉

〈学習を大切に Respect for Learning〉

〈環境を大切に Respect for Environment〉

〈リーダーシップを大切に Respect for Leadership/Authority〉

というこの5つの大切が「5リスペクト」です。

なんだか平凡で、当たり前のことを並べただけのように見えますが、SIS・OIS ではいろいろな場面で活用しています。活用する前に、まずは生徒たちの理解が先決なので、SIS 中学一年生は校長の「5リスペクト」の授業を受けることになっています。中学二年生になると「5リスペクトポスターコンテスト」を開催したり、高学年になると、自分の学校生活を振り返り、「5リスペクト」と照らし合わせながら、自分自身を自己採点する時間も持ちます。しかし、一番「5リスペクト」について考え、理解するチャンスとなるのは、何か問題が起きた時でしょう。（少人数制で目が届くとはいえ、多感な時期の生徒たちですので当然、たまには問題が勃発します。）事の大きさにより、校長、カウンセラー、担任などが指導をします。その時